

令和5年度「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケート結果概要について

1 「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケートの目的と実施方法等

(1) 目的

- ・ 学校教育に関わる意見や意識を数値化し、学校評価へ反映することにより、学校評価の客観性や信頼性を高める。
- ・ 全校共通質問の市平均等との比較により自校の強みや弱みを確認し、学校評価に反映する。

(2) 対象者

①児童生徒 ②教職員 ③保護者 ④地域住民（R5回答者数 57, 596人）

(3) アンケート項目

【A質問】

- ・ 市が設定した全校共通のアンケート質問。「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」の施策に基づく20の評価項目に関連したアンケート質問が設定されており、各対象は、関連したアンケート質問に回答する。
- ・ 児童生徒15問、教職員20問、保護者13問、地域住民7問 計55項目

【B質問】

- ・ 全校共通の2つの評価項目に関連したアンケート質問が設定されており、全対象がアンケートに回答する。
- ・ 学校が独自に、最大8問までアンケート項目を追加設定することができる。

(4) 実施方法

原則Webで回答することとしたが、地域住民には紙媒体も併用して実施した。
(紙での回答者数：地域住民429人 児童生徒1人 保護者1人)

(5) 実施時期

令和5年10月から12月まで

2 全体アンケート集計結果の概要

- ・ 「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」の策定に伴い、本年度から質問の一部を変更したため、経年比較ができない項目がある。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」については、児童生徒、教職員ともに、肯定的割合が90%を上回っており、保護者は肯定的割合が90%に迫る結果となった。
- ・ 「宇都宮の良さ」、「地域と連携した教育活動の充実」については、児童生徒、教職員、保護者において、昨年度との肯定的回答割合と比較し、1.0ポイントから4.1ポイントの上昇が見られた。
- ・ 「学校の業務の効率化」については、学校の取組を評価する質問から、個人の取組を評価する質問に変更した。教職員の肯定的回答割合は80%を上回った。
- ・ 「いじめ対策」、「不登校対策」については、保護者の肯定的回答割合は、「いじめ対策」が80.5%、「不登校対策」が89.5%となっており、児童生徒、教職員の肯定的回答割合が95%以上という結果と比較して低くなっている。
- ・ 学校独自質問の数を最大の8問まで設定した学校や、地域学校園共通の目標を設定した学校園など、アンケートの取組の充実が見られた。

- ・ 保護者の回答率が昨年度との比較で9.0ポイント減少した。一方で、地域住民の回答数は昨年度から約5.5パーセント増加した。

3 全体アンケート集計結果の分析のポイント

※1 表中の「増減」は、令和4年度との比較
 ※2 「※」は、質問変更のため増減比較ができない。
 ※3 「/」は、評価対象外

(1) 確かな学力を育む指導の充実

評価項目		児童生徒	教職員	保護者	地域住民
No. 1 児童生徒は、他者と協力し合ったり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。	R5 (%)	90.5	94.3	87.5	/
	増減	※	※	※	/
No. 3 児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。	R5 (%)	87.6	92.1	82.1	/
	増減	-0.8	3.1	3.0	/
No. 14 教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。	R5 (%)	95.7	98.7	84.0	/
	増減	0.1	-0.3	0	/

No. 1 「学習に取り組む態度」については、教職員、児童生徒の肯定的回答割合が90%を上回り、児童生徒が学習に対して主体的に取り組んでいる成果が表れている。No. 3 「目標に向かって粘り強く取り組む」は、教職員、保護者の肯定的回答割合が約3ポイント上昇しており、児童生徒が粘り強く学習活動に取り組む成果として表れている。No.14 「分かる授業」についても教職員、児童生徒の肯定的割合が95%を上回っており、教職員が主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいる成果となっている。No. 1 「学習に取り組む態度」、No. 3 「目標に向かって粘り強く取り組む」、No.14 「分かる授業」の保護者の肯定的回答割合は、昨年度と同様、児童生徒、教職員に比べて低い結果となっている。

次年度は、義務教育9年間を通した学習指導を充実させるとともに、児童生徒の実態を分析し、学習指導の充実を図り、学力向上につなげていくことが必要である。

(2) 宇都宮の良さ

評価項目		児童生徒	教職員	保護者	地域住民
No. 7 宇都宮の良さを知っている。	R5 (%)	85.5	85.5	73.0	/
	増減	1.0	2.6	4.1	/

No. 7 「宇都宮の良さ」については、昨年度の肯定的回答割合と比較し、アンケート対象になっている児童生徒が1.0ポイント、教職員が2.6ポイント、保護者が4.1ポイント上昇した。小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から「宇都宮学」が実施されており、児童生徒の学習への理解が着実に深まっている成果として表れている。全市一斉土曜授業において、学習したことを参観者に向けて発表するなど、保護者が児童生徒の学びを実感できる機会を設けていることが、保護者の肯定的回答につながったものと考えられる。

(3) いじめ・不登校対策の充実

評価項目		児童生徒	教職員	保護者	地域住民
No.11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。	R5 (%)	96.8	99.3	80.5	93.5
	増減	0	0.4	-1.3	/
No.12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。	R5 (%)	95.9	98.4	89.5	/
	増減	0.1	0.1	-0.1	/

No.11「いじめ対策」については、児童生徒、教職員の肯定的回答割合が95%を上回っており、昨年度同様、いじめは許されない行為であるということが児童生徒に指導されている成果として表れている。保護者の肯定的回答割合については、1.3ポイント低下した。

No.12「不登校対策」については、児童生徒、教職員の肯定的回答割合が95%を上回った。保護者への質問「教職員は、一人一人の児童生徒を大切に、児童生徒がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」に対しては、肯定的回答率が90%を下回る結果となった。

引き続き、いじめや不登校を生まないための指導や学校経営・学級経営の充実に努めるとともに、いじめの未然防止や早期発見に向けた取組を保護者や地域にも発信するなどし、児童生徒にとって楽しく学ぶことができ、保護者にとって安心して通わせることができる学校づくりに努めていく必要がある。

(4) 教職員の業務の効率化

評価項目		児童生徒	教職員	保護者	地域住民
No.16 教職員は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。	R5 (%)	/	82.6	/	/
	増減	/	※	/	/

No.16「学校の業務の効率化」については、学校全体で進めてきた働き方改革を推進し、教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率化に取り組むことができるよう、本年度、質問を「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」から「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」に変更し、設定した。80%以上の教職員が、勤務時間を意識し、業務の効率化に取り組んでいるという結果になっており、各学校の取組と教職員一人一人の勤務時間への意識や業務の効率化の取組が、学校全体としての働き方改革につながっている。

(5) 小中一貫教育・地域学校園の活動

評価項目		児童生徒	教職員	保護者	地域住民
No.17 学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。	R5 (%)	87.0	90.9	81.4	94.7
	増減	※	※	1.2	※

No.17「小中一貫・地域学校園の取組」については、児童生徒の肯定的回答割合

が87%、教職員、地域住民の肯定的回答割合は90%を上回った。学校行事や授業など、学校間での児童生徒、教職員の交流が増えてきたことで、小中一貫・地域学校園の取組の回復・充実につながった。

今後は、教職員が小中一貫教育カリキュラムに基づき、児童生徒の教育効果を高められるよう、小中一貫・地域学校園の枠組みを生かした教育活動の充実に取り組んでいく。

(6) 地域と連携した教育活動

評価項目		児童生徒	教職員	保護者	地域住民
No.18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。	R5 (%)	92.0	98.6	89.2	97.1
	増減	1.3	0.5	1.2	※

No.18「地域と連携した教育活動」については、児童生徒、教職員、保護者の肯定的回答割合は、昨年度を上回る結果となった。また、地域住民の質問については、連携する地域の例示として、魅力ある学校づくり地域協議会、学校支援ボランティアを挙げて質問し、肯定的回答割合は約97%と高い数値となった。コロナ禍から教育活動が回復し、地域の教育力を活用した活動の機会が充実している成果として表れている。

今後も、学校が、家庭・地域・企業等と連携するとともに、「街の先生活動事業」、「地域未来会議」を推進するなど、地域の教育力を活用し、学校教育の充実に努めていく。

(7) 児童生徒の生活習慣

評価項目		児童生徒	教職員	保護者	地域住民
No.4 児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。	R5 (%)	92.0	93.5	89.9	99.3
	増減	※	-1.0	-1.7	/
No.21 児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。	R5 (%)	93.3	89.9	85.4	93.0
	増減	/	1.6	-1.5	-2.4
No.22 児童生徒は、きまりやマナーを守って生活をしている。	R5 (%)	93.7	92.8	91.9	94.4
	増減	/	-0.1	-1.8	/

No.4「健康・安全な生活」、No.21「時と場に応じたあいさつ」、No.22「きまりやマナー」の生活習慣に関わる評価項目については、おおむね良好な状況であり、引き続き、家庭や地域でも気持ちの良い挨拶ができるように、心の豊かさを育む指導の充実に努めていくとともに、健康や安全な生活を心掛けたり、きまりやマナーを守って生活したりするなど、生活習慣を身に付け、学校、家庭、地域でのよりよい生活につながるよう規範意識の醸成に向けた指導の充実に努めていく。

(8) 保護者の回答率

保護者の回答率については、全市一斉土曜授業の前後をアンケート期間とし、

学校からのさくら連絡網を使った保護者への周知や、アンケートの回答完了確認の変更などの実施方法の対策を行ったが、回答率の減少が見られた。

次年度は、アンケート回答率を上げられるよう、メールの受信画面から簡単に回答することができる方法など、回答の方法について改善の検討をしていく。

(9) 地域住民の回答

地域住民の質問数は、A質問とB質問合わせて9問を設定しており、すべての質問において90%を上回る結果となった。各学校での教育活動や児童生徒の成長の姿を通して、地域住民から学校教育への理解が得られている。なお、地域住民の回答数については、Webでのアンケートを開始してから毎年約1～2割の回答数の減少が見られていたが、本年度の地域住民の回答数は、1,374人となり、前年度から72人増加した。今後も、地域住民の回答数を増やして、地域からの意見を学校経営の充実に活かしながら、地域とともにある学校づくりの推進を図っていく。